

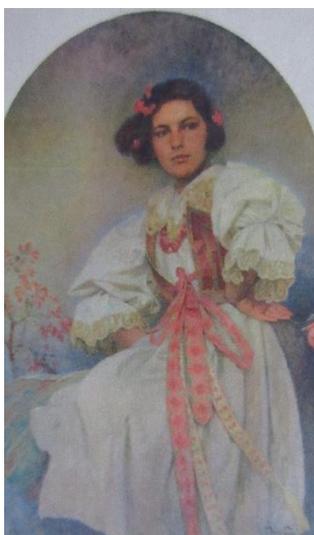
ミュシャ展 マルチ・アーティスト先駆者

そごう美術館（そごう横浜店6階） 24.11.23～25.01.05



「アルフォン・ミュシャ」(1860～1939)は、アール・ヌーヴォーを代表するチェコの国民的芸術家で、貴重な直筆作品「約60点」をはじめ、お菓子や香水のパッケージ、宝飾品等代表的な作品にとどまらない魅力を紹介している。展示品は、チェコ個人コレクター「ズデニェク・チマル博士」のコレクションから、初来日となる「約90点」を含む「約170点」の選りすぐりである。
(トピックス)

1. 書籍からプロダクトデザイン、素描や水彩、油彩画と多岐にわたる作品。
2. リトグラフとは異なり、唯一無二の貴重な直筆作品「約60点」の紹介。
3. ポスター《ジスモンダ》(チラシ図)をはじめ、装飾品や資料集の紹介。特に、特徴的な優美な女性像と花々を組み合わせた魅力が見どころ。
4. 自画像、家族や友人との写真に学生時代の直筆ノートの展示。



「ポール・ゴガン」との写真に、油彩画《エリシュカ》に注目 左図
リトグラフ《装飾パネル連作 四季 春、夏、秋、冬》1896年 右図
春夏秋冬一枚ずつをパネルにして、各パネルには女性が一人ずつ描かれて、折々の季節のなかで思い思い格好で過ごしている4枚1組の作品。

どの絵にも女性と草木の組み合わせで、季節によりモデルの髪の色を春はブロンド(金色)、夏はブルネット(褐色)というように描き分け、それぞれの季節の花飾りを頭につけるなど細部にもこだわった作品。